

豊明市障害者福祉計画等策定・推進委員会議事の要旨

平成 29 年 2 月 22 日（水）

午後 2 時 00 分～3 時 30 分

豊明市役総合福祉会館 3 階視聴覚室

委員長および副委員長の選出

委員長に豊明市社会福祉協議会長 加藤氏、副委員長に豊明市民生児童委員協議会長 神谷氏が選出される。

1 あいさつ

加藤新委員長、神谷新副委員長からあいさつ

2 議 事

（１）現行計画の概要および計画推進に係る補助事業について

【資料 1～2】に基づき事務局から説明。

（２）豊明市障がい福祉計画（平成 30～35 年度）の策定について

【資料 3～4】に基づき事務局から説明。

1 計画策定の基本的な枠組みについて

2 次期計画（豊明市障がい福祉計画）の策定スケジュールについて

3 計画策定体制について

（３）地域実態把握（アンケート実施）について

【資料 5・追加資料】に基づき事務局から説明。

主な質疑応答と意見

【兼子委員】

補助金の概要のみの提示では成果がわかりにくく、評価できない。商工会で補助金の実績報告を行う際には実績数値、評価など第三者でも理解できるような資料を作成している。他の事業の実績等の提示がないため、判断が難しい。

【事務局】

次回の委員会の際には、計画の進捗状況の年次評価を含め、より具体的な資料をご提示します。

【松森委員】

補助を行った事業所名を教えて欲しい。

【事務局】

事業所開設費補助金は、（株）祐理 ぴいす（相談支援）

人件費等補助金は、（福）福田会ゆたか苑（短期入所）、（福）豊明福祉会ファインホームヘルプ事業所（居宅介護）、（株）DS パートナーズ ドアーズ（相談支援）

（株）祐理 ぴいす（相談支援） 4 事業所に補助している。

【兼子委員】

アンケートに関して、65歳以上を除外すべきでないのでは。年齢が上がれば、それだけ体の機能は落ち、さまざまな不便が増える。要介護認定を受けるまでもない障害者の声をきちんと反映させるべきではないか。

【三浦委員】

アンケートは3年前と変わっているか？比較検討するために同じにしているのでしょうか。前回のアンケートに家族として本人に代わり回答したが、時間がかかり大変だった。回答する障がい者や家族にとって、回答しやすいアンケートにしてください。（記載例をつけるなど）また、アンケートの結果を広報やホームページなどできちんと公表し、回答者へ還元してほしい。

【事務局】

3年前も同じアンケートのひな形を元に項目を整理して作成している。今回も同様にと考えているが、ご意見を元に回答しやすいアンケートになるよう工夫していきます。

【平野委員】

前回アンケートの回収率は。また今回との整合性は？前回の結果との比較検討が必要。評価し、次の計画へ反映できることが望ましい。また、回答指標の判断に困る（例・一部介助か全介助か？）表現は、答えやすいよう工夫してください。

【事務局】

前は障害福祉サービスを既に利用している人を対象に、サービスの更新手続きに併せアンケートを提出してもらった。今回はサービスを使っていない人にも対象を広げている。アンケート結果を分析比較し、次期計画に反映していきます。

【中山委員】

高齢者計画のアンケート内容は、障がい者施策に関わる内容も網羅しているのか。それなら良いが、きちんと高齢者計画と連携を取りながら策定してください。

【委員長】

議論を整理すると、高齢者・介護保険計画との整合性をどう取りアンケートを実施するのか、ということになる。また老いに伴って障がいを負う人と、もともと障がいがあった人が年を重ねた場合と、事情が異なるように思う。事務局はその辺りをきちんと整理し、委員の意見を十分参考にアンケートを実施してください。

【木村委員】

アンケート案の中で、制度変更が反映されておらず古い表現が残っているところがありますので、注意してください。

出席委員 加藤 誠、神谷 鉦美、近藤 二、平野 雅紀、三浦 美智子、早川 要、
森井 曜子、木村 誠子、中山 広一、松森 正起、兼子 忠男、堀田 禮子、
橋口 寿美子 (敬称略・順不同)

傍聴者 1名

事務局 社会福祉課長補佐、児童福祉課長補佐、社会福祉課障がい社会
係主査、障がい者基幹相談支援センター長